

保護者及び評議員を対象とするアンケートの考察

回答率100%＜保護者51人 学校評議員5人＞

【平成30年 7月実施】

1 結果の分析

(1) 「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が過去において低かった項目（65%以下の項目）について 【表1】

	項 目	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20
教育方針	・特色ある教育活動の展開	84%	81%	72%	66%	79%	71%	62%	68%	61%	54%	43%
家庭との連携	・教育活動に関する評価の情報提供	86%	79%	80%	76%	82%	82%	61%	65%	58%	54%	34%
	・進路に関する情報の提供	84%	83%	86%	78%	83%	83%	63%	72%	57%	70%	53%
授 業	・児童生徒の実態に即した授業展開	80%	78%	84%	80%	85%	84%	65%	82%	65%	65%	54%
そ の 他	・いじめや差別への厳しい対応	75%	81%	86%	74%	83%	78%	59%	61%	55%	56%	30%
	・進路指導における関係諸機関との細かな連携	82%	72%	78%	69%	79%	78%	59%	60%	63%	60%	47%
学校独自項目	・保護者や地域の意見等を取り入れた学校運営	84%	75%	88%	72%	78%	75%	61%	66%	51%	62%	36%

【表1】は、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計を過去10年間と比較できるように列挙したものである。本校は今年度創立10周年を迎えたが、表を見ていただくとわかるように多くの項目で評価が少しずつ高くなってきている。特に今年度「学校は、他の学校にない特色ある教育活動を展開している」「学校は、自校の教育活動に関する自己評価を保護者(地域)へわかりやすく伝えている」「学校は進路指導において関係諸機関との連携をきめ細かく行っている」についてこれまでの10年間で最も高くなった。「特色ある教育活動」については、今年度10周年を記念してPTAを中心として様々な記念行事に取り組んだことが評価されたと考えられる。また、県の「かがやきプラン」の学校整備でほぼ本校の校区である海津市と輪之内町の児童生徒のみが在籍するようになり、より地域に根ざした学校にしていこうという学校側の姿勢が伝わったのではないと思われる。また、進路においても海津市の自立支援協議会就労部会と連携してチラシを作成したり、相談会を設けたりしたこと、地元の企業と作業内職場実習の提携をすすめたことなどが評価されたものと思われる。

(2) 「わからない」が過去に20%を超えている項目 【表2】

	項 目	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20
教育方針	・特色ある教育活動の展開	14%	13%	22%	19%	9%	16%	15%	19%	21%	22%	40%
家庭との連携	・進路に関する情報の提供	5%	8%	5%	15%	5%	9%	20%	18%	26%	16%	37%
そ の 他	・体罰の防止	21%	12%	16%	20%	13%	21%	31%	35%	42%	35%	50%
	・いじめや差別への厳しい対応	25%	14%	14%	24%	13%	19%	38%	34%	40%	41%	63%
	・進路指導における関係諸機関との細かな連携	14%	24%	19%	26%	14%	14%	33%	34%	26%	24%	47%
学校独自項目	・保護者や地域の意見等を取り入れた学校運営	11%	20%	10%	26%	12%	17%	24%	25%	40%	27%	50%
	・特別支援教育のセンター的機能の遂行	16%	12%	14%	12%	14%	16%	22%	23%	34%	32%	43%

【表2】は、「わからない」が20%を超えている項目の過去10年間と比較できるように列挙したものである。この項目に関しても、上記(1)と同様の傾向を見ることができる。この項目数を年度ごとに追って見ると、「わからない」が20%を超える項目は開校当初と比較し少なくなっている。このことについては本校が地道に積み上げてきた教育活動や広報活動の結果であろうと考える。今年度20%を超えた項目は、「学校では、体罰の防止に努めている」「学校では、いじめや差別を許さず厳しく対応している」の二つであった。別の児童生徒・保護者への体罰やいじめ等に関するアンケート調査ではそういった事実は認められないため、様々な機会を通して体罰やいじめ等の防止に関する取り組みを保護者に伝えていく必要があると考える。

(3) アンケート全体に関わって

「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計が80%以上の項目数を年度毎に追ってみると、38項目中、平成20年度が6項目、平成21年度が8項目、平成22年度が3項目、平成23年度が26項目、平成24年度が16項目、平成25年度が30項目、平成26年度が34項目、平成27年度が32項目、平成28年度が36項目、平成29年度が33項目、今年度も33項目であった。近年はおおむね良い評価をいただいているといえる。

今年度特筆すべき点は回答率が100%だったことである。当然その中には厳しい評価をされる保護者もみえるが、それは本校に改善できる可能性を感じていただいているからだと考えたい。

残念ながら教職員に関する多くの項目でこの3年間の間で最も評価が低くなり、「わからない」がこの5年間で最も多くなった。特に「学校の先生は、児童生徒の実態を的確にとらえている」という項目では、「良くあてはまる・ややあてはまる」が、75%と低く「あまりあてはまらない」も11%であった。実態をとらえる客観的な指標をもとに、学校生活の中で実態を的確にとらえ保護者との懇談を進めていくことが必要である。また、「専門知識が豊かで教師としての資質を身に付けている」や授業に関する項目「授業内容や進度が実態に即している」「児童生徒一人一人に合った教材教具が準備されている」については、「わからない」が15%以上でこの3年の中で最も多かった。すべての保護者に満足していただくのは難しいことではあるが、少しでも満足していただけるような教育活動を行い、それを知っていただけるような取組をしていきたい。そのためには教職員一人一人が専門性を高めるとともに、日頃から保護者との連携を密にとっていくことが大切である。さらに教職員のチームワークを一層よくし、お互いがそれぞれのいい点を前面に出すとともにカバーし合えるような組織作りが必要であると考えられる。

全体的には高い評価をいただいているが、現状に満足せずさらに発展していけるようにしていきたい。

2 本校の教育活動を一層充実させる取組

(1) 発達検査を活用したアセスメントの実施

児童生徒の実態を、よりの確に把握し、適切な指導につなげるために新たに3種類の発達検査を採用し児童生徒に合わせて実施する。また、その結果を個別の教育支援計画作成や引継ぎの際の補助資料として活用する。

(2) 全校研究への取組

研究主題「自立に向けた力を育成するための指導・支援の在り方～支援環境に視点を当てて～」に全職員で取り組み、授業実践力と専門性を高める。特に支援環境の面から、児童生徒の実態に応じた教材教具等の工夫についても取り組む。

(3) 「かいづスマイルサポーター」事業の拡大

地域の方々の協力を得てボランティアとして様々な教育活動に参加していただくことで、将来にわたって児童生徒を支援していただけるようにする。

- ・人数が少なくなった高等部作業班と一緒に作業学習に参加していただくことで高等部の生徒にとってもより実社会に近い形で作業学習に取り組む。
- ・各種行事におけるサポーター、高等部の受け入れ先としての企業サポーター等を開拓する。

(3) 地域に根ざした学校としての発信

- ・海津市地域自立支援協議会「就労部会」への積極的な働きかけ、校内作業実習の公開と地域の福祉事業所や企業の紹介、面談会の開催。(継続・発展)
- ・一人暮らし高齢者宅訪問等、地域の人々との交流を広げ地域に活動を発信する。(継続)
- ・拡大版学校新聞の掲示を継続する。(継続)
- ・農業祭や道の駅での販売活動等、作業製品の展示販売を進める。(継続・発展)
- ・地域の銀行等で作品展を開催する。(継続)
- ・ホームページの内容を適宜更新する。(継続)
- ・今尾小学校・東江小学校・平田中学校及び海津明誠高校との交流を深め、その成果を合同で発表していく。(継続)
- ・居住地校交流を通して、地域の同年代の仲間との交流をすすめる。(継続)